国有林（矢良巣岳）の鳥類生息調査

林　　武　雄

昭和４５年１１月２日から２週間、南条郡河野村地籍矢良巣岳官行造林地において、国有林野における鳥類の生息調査が行われた。こ

この調査は、国有林野管理上の資料収集を目的として実施されたもので、筆者は林野庁の指示により敦賀営林署がこの調査を実施するにあたり、捕獲鳥種の判別のため高野営林署の西沢栄技官とともに林野庁から委嘱されて現地に滞在し、その調査に協力した。

なお、この調査は昭和４４年度から２年間の継続事業で、前年度の調査結果と比較検討する必要があるが紙面の都合で割愛し本年度分のみについて概要を報告する。

1　調査期間

昭和４５年１１月２日から同年１１月１５日までの１４日間

2　調査従事者

敦賀営林署　築地忠。橋村武男

3　判別者

高野営林署　西沢栄。福井県林務課　林　武雄

4　調査地の地況、林相

調査地は、南条郡河野村矢良巣岳山頂近くの官行造林地１林班いに位置し、標高４００～４２０メートルの峰筋で、北は武生市との境界分水嶺に位置する。

林相は１０～１５年生の天然広葉樹林（コナラ、クロモジ、ガマズミ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、リョウブ等）でアカマツが点在するが、南西の官行造林地側の大半はアカマツの伐採跡地である。

5　調査の方法

農林大臣から鳥獣捕獲の特別許可を得てカスミ網（一般には禁猟具）４０枚（網目3.3㎝のもの３０枚、1.9㎝のもの１０枚）を樹間に帯状に張り、ここを通過する鳥が網にかかるのをまって鳥種を記録する方法でおとりは使用しなかった。

なお、捕獲したものは林野庁指示の食性調査の対象のもの３種のほかはすべて放鳥した。

6　捕獲された鳥種は合計４目１２科３４種６２８羽で、１日当りの平均捕獲数は４４.８羽であった。その種類と数は次のとおりである。

ツグミ（１６３）、シロハラ（８２）、ルリビタキ（７６）、カケス（６２）、アオジ（28）、カシラダカ（２５）、シジュウカラ（２０）、マミチャジナイ（１９）、アトリ（１８）、エナガ（１６）、ホオジロ（１５）、ウソ（１５）、メジロ（１５）、ウグイス（１４）、クロジ（８）、イカル（７）、ヒガラ（７）、ベニマシコ（６）、ヤマガラ（５）、ヒヨドリ（4）、アカハラ（３）、ミヤマホオジロ（３）、コゲラ（３）、アカゲラ（３）、ゴジュウカラ（2）、トラツグミ（１）、ジョウビタキ（１）、シメ（１）、カワラヒワ（１）、カヤクグリ（１）、コノハズク（１）、ツミ（１）、コガラ（１）、アオゲラ（１）でこのうち最も捕獲数の多かったツグミ１６３羽は全体の２5.9％にあたり、シロハラ１３％、ルリビタキ１２％の順となる。科ごとに分類すると

ツグミ科（７種）３４５羽で全体の約５５％を占め、以下アトリ科（１１種）１２７羽、カラス科（１種）６２羽、シジュウカラ科（５種）４９羽、メジロ科（１種）１５羽となる。

調査の時期としては冬鳥のツグミ科の渡来する最盛期であり、特に昨年に比べて渡来数が多いのが目立っている。また林相や渡来期の関係からか、アオジ、クロジ、カシラダカが少なく、網の上を通過していたものにアトリ、マヒワがいた。

ツグミ科のシロハラ、マミチヤジナイの少ないのは渡来の時期が過ぎていたためとみられる。

このなかで注意をひくのはルリビタキで１日に３９羽（１１月６日）捕獲されており期間中１日の捕獲数としては最高であった。県内では小群でしか見られない種類としては意外である。

個体数の少ないツミ、トラツグミ、コガラ、コノハズク、アオゲラ、ジョウビタキ等が１羽づつしか捕獲されなかったのは当然のこととして高山鳥のカヤクグリは比較的珍らしい。また、ミヤマホオジロ、アカハラは本県としては少ない種類で記録価値がある。

なお捕獲されなかったもので現場で観察した種類にヒレンジャク、アオバト、モズ、キクイタダキ、マヒワ、トビ、ハシブトガラス、クマタカ、ハイタカ等があった。

7　結　び

以上概要を記したが、おとりを使用せず６００羽以上の野鳥が無差別的に捕獲された結果からみて、カスミ網が野鳥保護にとって想像を絶する有害性のあることが立証された。おそらく数羽のおとりを使用すれば捕獲数は数倍をこえたにちがいない。

カスミ網使用による密猟が一掃され、学術的にのみ使用されて野鳥の渡りの実態調査に大きな成果をあげることのできる日を待ち望むものである。

最後にこの調査にあたり敦賀高校上木泰男教諭の協力があったことを付記して謝意を表するものである。

福井県林務課　技師